

ことは何度も問い直し、よくわかった上で作業にかかるようにさせる。

- ① 精神的なおさなさ(未熟)が、一人では仕事ができないという問題を生んでいる。F男にできる活動をふやして「自信」を持たせると共に、一人で仕事をするということにも慣れさせる。
- ② 強い者には従属的だが弱い者には支配的な態度が、人間関係を阻害する大きな要因となっている。自己中心的な言動や、絶えず口や体の一部が動いている落ち着きのない生活態度を反省させ、おだやかさやおもいやりなどの気持ちを育てる。

といった内容がいっそう浮き彫りされることになった。

(3) ま と め

農耕園芸での作業や学級における、細かく具体的な指導を通して技能を高めたり、自信をもって、意欲的に取り組もうとする活動がふえていることは明らかである。しかし、職場に対して、学校ですると同じ個への配慮を求めることには、自ずと限界がある。F男がどんな生活環境の中でも、真に意欲的に生き生きと取り組み、自己の能力を最大限に発揮しようとする精神的なたくましさを身につけるには、学級指導や作業学習の指導はもとより、日常生活全般を通して重点目標へより確かに迫る指導を加えねばならない。卒業まで残された時間は多くないが、心を豊かにもちたくましく社会に自立していく姿の実現に向かって、充実した指導を重ねたいと思う。

高等部のまとめと今後の課題

我々は、豊かな心もちたくましく行動する力の育成によって、一人ひとりの生徒がより確かな社会参加を果たすことを目標として教育課程や個別指導に焦点を当てて研究実践を行ってきたが、多くの問題や課題をもっている現状である。今後も研究を進めて、高等部としてよりテーマの達成に近づくために模索し、努力していきたい。

(1) 教育課程と指導計画

国語・数学・体育・音楽の習熟度別クラス編成により、個別指導がより可能となり、生徒の課題達成による喜びの場面が多くなった。また、生活一般を設けて教科の枠をとったことにより、学習活動の細切れをなくし、生活に生かす学習内容を中心に展開できるようになった。しかし、学習単位が学級・全学年縦割り・全学年合同と指導単位によって変ることから指導単位相互の間で、集団指導のなかでの個別指導の関連づけや1年から3年までを見通した学習内容の構成をどうすればよいかを、指導内容の精選を含めて検討しなければならない。

(2) 個人目標の設定と指導

生徒の実態分析、個人目標の設定から研究授業、指導の成果や問題点など、高等部教官全員で検討をしてきたことは、生徒の個人の共通理解を強める機会ともなり、一人ひとりの生徒が課題意識をもち意欲の高まりを図ることにもつながった。しかし、つぎのような問題点や課題を今後の研究によって解決しなければならないと考えている。

- ① 生徒の実態把握のために、おもに個人カルテの記録を使用したか、より科学性をもつ資料収集を図る必要がある。
- ② 個人目標・具体目標を短期間に達成するには難しいものがあり、指導結果をもとに見直すことが必要である。
- ③ 年間指導計画の指導内容と、各生徒に共通する具体目標や個別に指導すべき内容とをどのように関連づければよいか。
- ④ 具体目標を達成するために指導内容のステップ化を図り、達成基準をもとにした指導の評価を明確にしていく。
- ⑤ 複数担当の指導体制のあり方を含めて、集団指導のなかでの個別指導をどのように生かしているか。
- ⑥ 両親の理解・協力を一層押し進めて、家庭生活との連携を図っていく。

(高等部主事)